

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第12号

収穫後のナシ黒星病防除の徹底について

ここ最近、ナシ黒星病の発生が平年より多い年が続いています。多発の原因としては様々な要因が考えられますが、その1つとして、前年からの本病越冬菌量が多いことがあげられます。

黒星病菌は菌糸の形態で落葉や芽基部鱗片で越冬し、翌年の伝染源になることから、来年春先の天候状態にもよりますが、今後も多発する可能性があります。

来年の本病多発のリスクを軽減するため、収穫後の防除対策を徹底し、本病の感染源である越冬菌量を減らしましょう。

1 対象作物名：ナシ

2 病虫害名：黒星病

3 防除対策

(1) 秋期防除

・薬剤の種類、防除時期等

有機銅剤等の保護殺菌剤の散布を、鱗片生組織が露出する10月～11月中旬(写真)に2～3回実施する。

(2) 落葉処理

園内に放置された落葉は、翌年の伝染源となるため土中にすき込むか、園外に持ち出し処分する。

(3) ぼけ芽の切除

ぼけ芽も本病の伝染源となるため切除し、残渣は落葉の場合と同様に処理する。

(4) その他

本県におけるスコア顆粒水和剤やアンビルフロアブル等のDMI剤の防除効果は低下傾向にある。耐性菌の発生を予防するためこれらの剤は秋期防除では使用しない。



図1 ナシの秋期防除で効果の出やすい時期(左)と出にくい時期(右)  
注) ○込みの部分は、露出した鱗片生組織